

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（11月定例会）会議録
開催日時	平成28年11月21日（月）14時00分から16時15分まで
開催場所	保谷庁舎 3階 会議室
出席者	委員：内田議長、木下副議長、岩崎委員、川崎委員、須永委員、沼本委員、服部委員、原委員、森田委員、矢野(真)委員、矢野(尊)委員 事務局：岡本課長、神田係長、奥住主事
議題	(1) 今後の活動について (2) その他 ①都市社連協拡大役員会（10/18）報告 ②社連協第4ブロック（10/22）の報告 ③関東甲信越静社会教育研究大会（10/27～28）の報告 ④社連協交流大会（12/17）の参加について
配布資料	資料1 事務事業評価シート（事後評価）社会教育関係団体補助金 事務事業評価シート（事後評価）学校開放プール運営事業 西東京市立学校開放プール実施要綱 資料2 西東京市立学校運営連絡協議会設置要綱 資料3 平成28年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 交流大会・社会教育委員研修会 実施要項 資料4 合築複合化基本プラン策定に向けた検討状況について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>●平成28年10月の定例会議の会議録について訂正の後、承認する。 P 4、「この1時間の議論なのかで」を「この1時間の議論の中で」に訂正</p> <p>○議長：資料4「合築複合化基本プラン策定に向けた検討状況について」について事務局から報告をお願いします。</p> <p>●事務局より、資料4「合築複合化基本プラン策定に向けた検討状況について」に沿って説明。</p> <p>○事務局：昨年度に基本プランの策定をし、それに必要な調査や研究、検討を行うために、公共施設等活用検討委員会要綱に基づいた補助機関として、西東京市合築</p>	

複合化基本プラン検討部会を設置した。この部会は公共施設等活用検討委員会の下部組織として、企画政策課で設置しており、調査や研究、検討、相互調整を行い、その結果を公共施設等活用検討委員会に報告するものである。今までに9回開催している。検討状況については資料4のとおりである。8月2日の行財政改革推進本部にて市長から指示があり、その内容は、これまでの懇談会や検討部会における提言を踏まえて検証を進めてきたところだが、3館合築と併せ、市民会館と中央図書館を合築し、田無公民館を存置する方策も選択肢とする指示であった。3館合築については9月の議会を含めて、これまでにいただいた議会からの提案や質疑を踏まえて、より丁寧な対応が必要であるという新たな指示があった。

○議長：質問はあるか。

○委員：公民館が存置されるということは、図書館が移転した部分については検討するということか。

○事務局：図書館が移転した後の場所をどうするかということによろしいか。この話し合いの中ではそれについて議論されていない。

○委員：存置される公民館というのは、今の場所に維持されるということか。

○事務局：そうである。

○委員：第1回の部分に記載されている検討フローに、ステップ1からステップ6まであるが、現在はステップ3までは検討し、それ以降についてはまだ検討に至っていないということか。上半期での策定を目指すとするが、どうなっているのか。

○事務局：9月までの策定を目指していたが、6月の議会等で丁寧な意見聴取をとという意見が多かったため、9月ではなく年内（平成28年12月）の策定を目指すということに変更した。しかしこの後に再度、丁寧な意見聴取をしながら進めてもらいたいという市長からの指示があったので、年内ではなくもう少し延びる予定である。

(1) 今後の活動について

○議長：では次に、今後の活動についてに移る。次年度に向け、事務事業評価についての意見を聞きたいということなので、事務局より説明をお願いします。

●事務局より、資料1「事務事業評価シート（事後評価）社会教育関係団体補助金、事務事業評価シート（事後評価）学校開放プール運営事業、西東京市立学校開放プール実施要綱」に沿って説明。

○議長：質問はあるか。

○委員：7月31日は東京都知事選挙があっても、プール開放は実施できたのではないか。

○事務局：当日のプール利用者及び選挙投票者の動線等を確認し、混在する可能性を検討した上で中止と判断した。

○議長：選挙投票日の投票所となっている学校は、基本的に全施設を選挙管理委員会が借り上げるため、校内施設は一般団体も使用中止となっている。

○事務局：近年の利用状況を見ると、毎年同じ団体であり限定的な利用になっている。広く市民の方に利用していただくという目的を考えると、学校開放プールについてはその使命を果たしつつあるのではないかと考えられる。

- 議 長：一般開放を実施しなくなったのにはどういった理由があったか。
- 事務局：一般開放は、学校プール以外にも代替の施設があるということで実施をしていない。
- 委 員：8月7日の参加者数ゼロというは、申込みが無かったということか。
- 事務局：そうである。実施日の中から団体側で日を選んで申請をするので、この日は希望する団体がいなかったということである。プール事業自体について、広く使用されるといより特定の団体の利用が多くなっている。調整等をし、違う形で社会教育事業を検討する時期かと考えている。
- 議 長：今後に向けての検討としたい。

※学校運営連絡協議会の取組について

- 議 長：前回会議の質問については、事務局が担当の教育指導課に確認中である。
- 事務局：本日は、明保中学校長である矢野(尊)委員に、学校の視点からの学校運営連絡協議会について見解等をお話しいただきたい。
- 委 員：(資料2「西東京市立学校運営連絡協議会設置要綱」に沿って説明。)
学校運営連絡協議会は、地域の方(保護者の代表)、教員等で構成し、学校長が諮問した内容について意見をいただく。4月当初は学校長の経営方針等運営について、2学期にはそれらの結果報告をし、3学期は年内の総括というのがおよそのテーマである。関係してくるのが学校評価であり、これは学校の目標についての結果を数値化して示すものである。ホームページ等にも掲載している。地域の方に学校について知っていただき、その視点から意見をいただく。
- 議 長：質問はあるか。
- 委 員：学校支援地域本部との関係についてお尋ねしたい。また、現在はコミュニティスクールではないようだが、今後の方向性があれば伺いたい。
- 委 員：地域との関わりにおいては、学校支援地域本部の形はとっていない。コミュニティスクールとしての関わり方を持つかどうかの方向性も未定である。
- 委 員：国の施策として学校支援地域本部とコミュニティスクールを学校に入れるという方向性も示されている。平成27年12月に地域学校協働本部ができたが、現場にはどのように伝わっているのか教えていただきたい。
- 委 員：現段階では未定である。
- 議 長：他にあるか。前回会議では、学校運営連絡協議会や学校評価委員会をコミュニティスクールと解することができるのかといった質問もあったと思う。いかがか。
- 委 員：コミュニティスクールというのは1つのパターンであり、学校評価と関係している。学校評価制度は、都立学校が先に取り入れたものであり、進学率など、学校ごとの数値目標を設定し、その結果を評価するものである。本来の目的は、地域、教員、教育委員会のコミュニケーションツールとすることである。学校が地域、保護者、教員と話し合い、意見を聴取し、教育委員会に示し支援をもらいなさいというものである。その役割は学校運営連絡協議会と重なるところがある。
- 委 員：我々はコミュニティスクールというと、学校運営連絡協議会や学校評価委員会と捉えているが、コミュニティスクールは、学校の運営方針についての承認や学校の人事に対する申立てなどができるようになっている。

- 議長：他にあるか。
- 委員：学校運営連絡協議会に加わり、学校評価にも係っている。数値化して示すことが昨今多いが、攻撃材料にするのではなく、それがあって、その学校がやっていることがきちんと評価され、教育委員会に報告されるのが大事だと思う。今の子供たちの実態や、先生の関わりがしっかりと数字に反映されているのかを検証するというスタンスで携わっている。限られた日数の会議で学校の運営について物申すということも難しいと思う。コミュニティスクールについてよく理解していないが、詳細な情報や綿密なやり取り、また、調査をすることなく学校について意見は言えないはずだから、現在、本市ではあまり必要と思えない。今の西東京市における学校運営連絡協議会での評価というのはそういう状況で、ホームページをみると毎年報告が出ているが、学校や地域によって温度差はあると思う。
- 議長：今後の活動について、子供たちのために学校と地域が連携するという、学校支援の課題もあったと思うので、引き続き検討したい。

(2) その他

①都市社連協拡大役員会（10/18）について

- 議長より報告。事務局より補足説明。

②社連協第4ブロック（10/22）の報告

- 議長：研修について振り返り、今後に生かしたい。意見はあるか。
- 委員：他市からの評判が良かった。
- 委員：今回の研修会は、検討した狙いそのままぴったりで、時間的無駄もなく、参加者も満足したと思う。
- 議長：他市の社会教育の学識の方にも高く評価された。西東京市の社会教育として、実際に地域で活動している市民の学習の場から事例報告をし、それを踏まえ各市からの意見をいただいたのが良かった。
- 委員：発表者の感想を聞くところによると、全体的にもっと堅苦しいものかと予想していたが、やわらかい環境で、自由に発言をもらえて良かったと言っていた。
- 委員：今までの研修会は社会教育委員とは何をすべきなのかなどの堅い話が多かったが、今回は、1つの交流会であると同時に委員の研修会としての資質の向上を図る良い機会になったと思うし、参加者にとって勉強になったと思う。今後に向け、良い研修会であったと思う。
- 委員：もっと討議が出ても良かったかもしれないが、研修会のスタイルとしては、とても良いものになったと思う。
- 委員：リーダーの重要性を認識する良い研修会であったと思う。
- 委員：地域のつながりの大切さを改めて感じる事ができた研修会であった。

③間東甲信越静社会教育研究大会（10/27～28）の報告

- 議長：それぞれの分科会について共有したい。意見等はあるか。
- 委員：学校教育支援の推進がテーマの分科会に参加した。全部で2つの報告を聞いて

た。1つ目は「地域との連携による体験学習の推進」についての報告だった。新たな体験や交流を通して、将来的に多様な成果があると期待しているという話だった。今後の課題として、どの地域も同じだと思うが、ボランティアの人材確保が難しいことを挙げていた。若者が少ないことから、行政・学校・地域が連携して、情報を発信し親子で参加できる活動を多く取り入れることが大事だと考えているということだった。2つ目は「学校教育を支援するための人づくり・まちづくり」についての報告だった。今後の課題は指導者についてだが、何ができるかではなく意欲があるかないかが大事であるということだった。

○委員：「家庭教育」に関する分科会に参加した。子どもたちの声に耳を傾け、生の声を拾い上げるのが社会教育の役割であるという話があった。もっと聞きたいと思える話が聞けた。

○委員：「社会教育委員の役割について」の分科会に参加した。1つ目は地域の子供の貧困化に対して、様々な活動をしている方の報告だった。2つ目は社会教育委員の役割を主とした報告だった。生涯学習や地域学習を推進するために社会教育委員が果たすべき役割は何か、また、それに向けどのような研修をするかについて話し合った。まちづくりに協力していくことや、自主的に研修をするのが良いのではないかなどと話が出ていた。

○議長：「災害に強い地域づくり」に関する報告を聞いた。災害と社会教育委員の活動がどう結びつくのかについて話し合った。市と地域と学校の防災訓練、地域の実態に沿ったマニュアルの作成などが挙げられた。いずれも有意義な分科会であったようだ。今後に生かしていきたい。

④社連協交流大会（12/17）の参加について

●事務局より資料3「平成28年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 交流大会・社会教育委員研修会 実施要項」に沿って説明、確認。

○議長：それでは以上で社会教育委員の会議11月定例会を終了する。

※次回会議 平成28年12月19日（月）午後2時から